

白子集





不<sub>レ</sub><sub>レ</sub><sub>レ</sub> 松<sub>ノ</sub> 寺<sub>ノ</sub> 序 （五言）

語曰德不孤必有隣  
の國々々糸約注江其外の人々集い  
ゆる事暑ふ 芭蕉翁の二百年  
忌に於て松<sub>ノ</sub> 寺<sub>ノ</sub> 序<sub>ノ</sub> 文<sub>ノ</sub> 集<sub>ル</sub>  
りて靈魂を慰む事<sub>ノ</sub> 又<sub>ノ</sub> 紀<sub>ノ</sub>  
念<sub>ノ</sub> 寺<sub>ノ</sub> 序<sub>ノ</sub> 文<sub>ノ</sub> 集<sub>ル</sub>



そや其村の郡不郡のうま  
く信のうまのうまのうま  
おまのうまのうまのうま  
ふあまのうまのうまのうま  
江都のうまのうまのうま  
みまのうまのうまのうま  
おまのうまのうまのうま

柱のうまのうまのうま  
加のうまのうまのうま  
裁のうまのうまのうま  
わのうまのうまのうま  
おまのうまのうまのうま  
おまのうまのうまのうま  
おまのうまのうまのうま



あはれい 縁子に花の道もあはれい  
あはれい 花の道もあはれい  
あはれい

明治の末の歳盛書

あはれい  
あはれい  
あはれい  
あはれい



百のうた集

二百回忌正當佛詣連歌眼起

あはれい 葉の表に  
あはれい 葉の表に  
あはれい 葉の表に  
あはれい 葉の表に

あはれい

系静

澄江

一具唐尋香  
殊唐粉香  
玉葉唐系粉  
翠葉唐系粉  
江 綸 棧



源 秀 伯 の 一 一 一 一 飲 々 々  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

夕之  
 和北  
 銀平  
 芦水  
 榮松  
 杉徳  
 枕葉  
 隆徳  
 東宣  
 松鶴

太代のチヤー 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一

高希  
 玉水  
 百圓  
 玉山  
 雪我  
 幽谷  
 高深  
 中野  
 一民  
 謝棟



海きの舟子村く〜  
きほひ〜く〜く〜く〜く〜く〜  
ゆき〜く〜のけやま〜  
ゆき〜く〜く〜く〜く〜く〜  
き〜く〜く〜く〜く〜く〜  
ゆき〜く〜く〜く〜く〜く〜  
ゆき〜く〜く〜く〜く〜く〜  
ゆき〜く〜く〜く〜く〜く〜  
ゆき〜く〜く〜く〜く〜く〜  
ゆき〜く〜く〜く〜く〜く〜

卯水  
梅雪  
逸川  
一葉  
高株  
飲月  
春泉  
雪江  
蒼苔  
月泉

駒牙戯を〜  
秋晴ふ〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜

庭台  
尋香  
執筆

〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜

蓬宇  
吟風  
以孝



おれくし書めり

あゝさるは女のふれもさるは新  
うけあさる月やあやを年之を  
二百年し一せよのしは年  
さるはさるの逢しはしはる  
しはるはさるの逢しはる  
あゝさるはさるの逢しはる  
さるはさるの逢しはる  
さるはさるの逢しはる

伊勢

耕る

る

香る

を青

社楽

藍屋

藍屋

十湖

蕙歎

あゝさるはさるの逢しはる

尾長

さる女

あゝさるはさるの逢しはる

信長古

省我

あゝさるはさるの逢しはる

一嘗

あゝさるはさるの逢しはる

晴我

あゝさるはさるの逢しはる

寿山

あゝさるはさるの逢しはる

産る

あゝさるはさるの逢しはる

甲斐

友口

あゝさるはさるの逢しはる

武蔵

富積

あゝさるはさるの逢しはる

さる



佛檀の心くわくや知くわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
筆にあらくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく

知香  
山  
入瓢  
甘多  
蓬秀  
檀多  
身牙  
梅年  
善岳  
松年

くわくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく  
ふくむくわくわくわくわくわく

枕之  
善文  
屏向  
房井  
甘道  
古一  
色画  
之六  
路米  
菜由

(三)

(三)



うねりうねり柳の影  
ふんやうふんやうの影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影

東京

是珠  
朱文  
梅壽  
芳律  
壽北女  
碧海  
梅林  
貞松  
信足  
乙年女

白石木の子  
節の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影  
あふみの白の影

自國

桑月  
敵月  
春裁  
幽年  
甘聲  
布衣  
一陽  
蒼雪  
翠柳  
犬山



敬く人下を為りてふよき事なり  
兼一多の二五年のくつ川に結  
とや燃るる火のあふ十二日  
白く清くけりてふ事あり  
うきうきと影もふす物なり  
まじりていかに清くけり  
折る折る中をさすや度なり  
ふたふたの志を結くやうにあり

津本  
一瀬  
一賀  
束令  
其友  
玉水  
精徳  
和北

我々守り奉るのこころ

心ゆくまゝに書きて

其味をくつ川にさす酒

七十八の  
尋香

其れをさす心ゆくまゝに

八十五の  
糸静

まじりていかに清くけり

澄江

本中をさす心ゆくまゝに

東京  
之石

くつ川の影もふす物なり

其友

まじりていかに清くけり

玉水

ふたふたの志を結くやうにあり

精徳  
和北

⑦



身をゆきかきしめぬ  
 節のさかきつてくる春の水  
 ありけりやいづれか  
 中にもさかきつてくる春の水  
 春月・ゆきかきしめぬ  
 いづれか  
 知るふやのさかきつてくる春の水  
 是れをさかきつてくる春の水  
 てくれりしめぬ  
 ゆきかきしめぬ

文  
 逸朗  
 止  
 月  
 芽  
 似  
 雪  
 虚  
 魯  
 水

春  
 角  
 殊  
 乃  
 う  
 朝  
 新  
 冬  
 柳  
 誰

春山  
 凉松  
 東鶴  
 柔友  
 一  
 蒼松  
 未  
 竹  
 山  
 梅







柳掃や 庭をみよりの敷きしき  
しやあまのまきしきしきしき  
あまのあまのまきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
市を流ししきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
水もあまのまきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
形代や 庭をみよりの敷きしき

まほ

木洞

文林

山

然

此君

風

伊豆

連水

まほ

宇山

月待 秀嶺 竹雨 一境 采茶 夢南 五嶺 央 連泉 蕙南

橋邊

蕙南

連泉

央

五嶺

夢南

采茶

一境

竹雨

秀嶺

月待











心... 月... 水... 柳... 碑... 死...

常陸 千壽 龜峰 千壽 德破 東里 陪 魚板 千壽 島石 菜子

星... 旅... 海... 水... 高... 竹... 山...

井田 柳安 水湖 逸水 海湖 桑古 磐山 芳村 鳳卵 梅香



新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川  
新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川  
新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川  
新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川  
新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川

行路  
柳華  
梅白  
吳羊  
北山  
秋水  
一眺  
儿風  
尚富  
松窓

新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川  
新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川  
新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川  
新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川  
新緑の音も春も川  
掃落の音も春も川

華城  
月舒  
三敬  
本鳳  
鱗一  
羊山  
ま更  
幹史  
牛四  
妹松



知るや 侍る 入る 碁石 草

越中

抱魚

~~~~~ 碁石 碁石 碁石

碁石

~~~~~ 川 好む 折居

犬色

~~~~~ 懐 懐 懐

抱月

~~~~~ 女 月 雨

空嶂

~~~~~ 梅 冬 木 三

冬付

~~~~~ 祥 子 子 子

春鳥

~~~~~ 川 舟 舟 舟

梨属

~~~~~ 子 子 子 子

子之兵

~~~~~ 川 舟 舟 舟

電才

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

茶壺

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

梅屋

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

梅屋

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

兼秀

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

席山

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

逸外

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

抱魚

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

笠箱

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

梅屋

~~~~~ 舟 舟 舟 舟

梅屋



朝月やまはるは 経るが家根の柳

井後 敬  
彦 本  
三國 嶽北

はれ向の自然に 月を月を

自國 貞砥

まのまに 柳の葉をの葉を

羽人

まはるや 舞の音をまはる

樂只

し下 葉をまはるまはる

斗信

まのまに 柳の葉をの葉を

眼臨

まはるまはるまはるまはる

星月

まはるまはるまはるまはる

双雲

まはるまはるまはるまはる

白羽

まはるまはるまはるまはる

月菜

まはるまはるまはるまはる

九菜

まはるまはるまはるまはる

綿成

まはるまはるまはるまはる

芽里

まはるまはるまはるまはる

多風

まはるまはるまはるまはる

界山

まはるまはるまはるまはる

火

まはるまはるまはるまはる

太呂

まはるまはるまはるまはる

蓮丈



水... 約... 一... 一



三月

白國... 陀

正一

春阜

梅香

老菊

高松

雪信

玄徳

高岩

Handwritten cursive text in vertical columns on the right page.

吾係

中子

吐雪

秋月

千途

一武

晚行

途川

月高

水高

Handwritten cursive text in vertical columns on the left page.









陣 一 移 十 一 月 一 月  
修 一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月

風 十 山 曉 淨 正 和 清 晴 梅  
風 十 山 曉 淨 正 和 清 晴 梅

一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月  
一 月 一 月 一 月 一 月

月 晴 華 水 菜 布 陣 剛 千 都  
月 晴 華 水 菜 布 陣 剛 千 都



こころをさるるに 記の如くは 柳

保信

柳の如くは 記の如くは 柳

隆徳

全同集

さるるに 湯の味 甘くは 柳

示宮

少佛の如くは 記の如くは 柳

秀縁

さるるに 湯の味 甘くは 柳

文同

さるるに 湯の味 甘くは 柳

麻山

さるるに 湯の味 甘くは 柳

鳥跡

さるるに 湯の味 甘くは 柳

藍芝

さるるに 湯の味 甘くは 柳

金吾

さるるに 湯の味 甘くは 柳

輝月

さるるに 湯の味 甘くは 柳

玉照

さるるに 湯の味 甘くは 柳

晴光

さるるに 湯の味 甘くは 柳

松屋

さるるに 湯の味 甘くは 柳

一正

さるるに 湯の味 甘くは 柳

雲月

さるるに 湯の味 甘くは 柳

示宮

さるるに 湯の味 甘くは 柳

遊

さるるに 湯の味 甘くは 柳

柳古

さるるに 湯の味 甘くは 柳

我意



~~~~~

世

東月

全同准

~~~~~

榮松

~~~~~

雪戎

~~~~~

五山

~~~~~

笑筭

~~~~~

典翠

~~~~~

馬劇

~~~~~

志一

~~~~~

木高

~~~~~

明月

~~~~~

赤雲

~~~~~

只野

~~~~~

枕葉

~~~~~

菊海

~~~~~

竹意

~~~~~

文高

~~~~~

竹翠

~~~~~

東嶽

~~~~~

百圃







妙うき入うきうきうきうき  
けきけきけきけきけきけき  
人きき木の初きききききき  
のうきうきうきうきうき  
ききききききききききき  
けきけきけきけきけきけき  
けきけきけきけきけきけき  
けきけきけきけきけきけき  
けきけきけきけきけきけき  
けきけきけきけきけきけき

界  
安春  
香  
枕華  
静月  
梅遊  
敏破  
香梅  
枕木  
松星

月川之ねる陰控心けあつて  
贈布多き若母ききききき  
馬雲やあつて月川きききき  
その月影梅の日のききき  
ききききききききききき  
筆にききききききききき

香雄  
清香  
実亮  
文山  
と  
井繡

山陰のききききききき  
ねの祥婦ききききき  
ねききききききききき

浄江  
系  
茶

茶

茶



川流にや降鶴の  
月よりたかす榊の  
影る心こころを  
道より人けを建てる  
高きを学ばしむる  
聲入の音は 朝  
神の夜は 縁を  
玉音のやうに  
流水のうららかに  
ふいふとちかちか

和北  
北江 北江 北江 北江 北江 北江

花をよみては  
麻の葉にや神の  
こころを 善く  
まのこころを  
可なりとて  
中納言の  
おまへに  
ふかき  
く

北江 北江 北江 北江 北江 北江



佛とては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

江 北 江 北 江 北 江 北 江 北 江 北

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

佛の如きものありては是れ也

江 北 江 北 江 北 江 北 江 北 江 北











川~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

山

山

山

山

山

山

山

山

香~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

正一

和北

北

北

北

北

北

北

北







新じり級をいれぬまうと

情向を結ぶしと解

後よのまをうけいりて之のまに

新しき年をそとてか暁

華は清涼の干支候をともめ

まよふとあはれし陽の

清く水の中をうきまわると

傾く山をうきまわると

清く川原の新し春をうきまわ

和  
北

— 北 — 北 — 北

用いしは清く水の中をうきまわると

茶を會し月をまてのまに

柳田のまをうきまわると

寺奥の秘儀鬼の道に

馬士をうきまわると

清く清く干支候のまに

しとて清く清く降し

新國のまをうきまわると

川のまをうきまわると

新しきまをうきまわると

北 北 北 北 北 北 北 北















夕月 舟に 葉を 葉を 葉を 葉を

尋香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

糸粉

味 味 味 味 味 味 味 味

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

香



想若くは 釋の如く 川に  
山鶴の尻より 言く 鳥居  
翰の 秘の 古の こと こと こと  
是の こと こと こと こと こと  
唯の 約の こと 稀の 稀の 稀の  
白の こと 稀の こと 稀の 稀の  
六の 四の こと こと こと こと  
少利の こと 朝の こと 夕の こと  
こと こと こと こと こと こと  
何の こと こと こと こと こと

香 香 香 香 香 香 香 香

何の こと こと こと こと こと  
こと こと こと こと こと こと  
又七車 こと こと こと こと  
市の 約の 約の 牛の こと こと  
何の こと こと こと こと こと  
こと こと こと こと こと こと  
早の こと こと こと こと こと

香 香 香 香 香 香 香 香

満尾 第十八章



明治二十九年時雨月

上布子色友人田中系静

子行書之序

吉原

采月畫



上総國周准郡周南村大山野

文喜所

田中系静

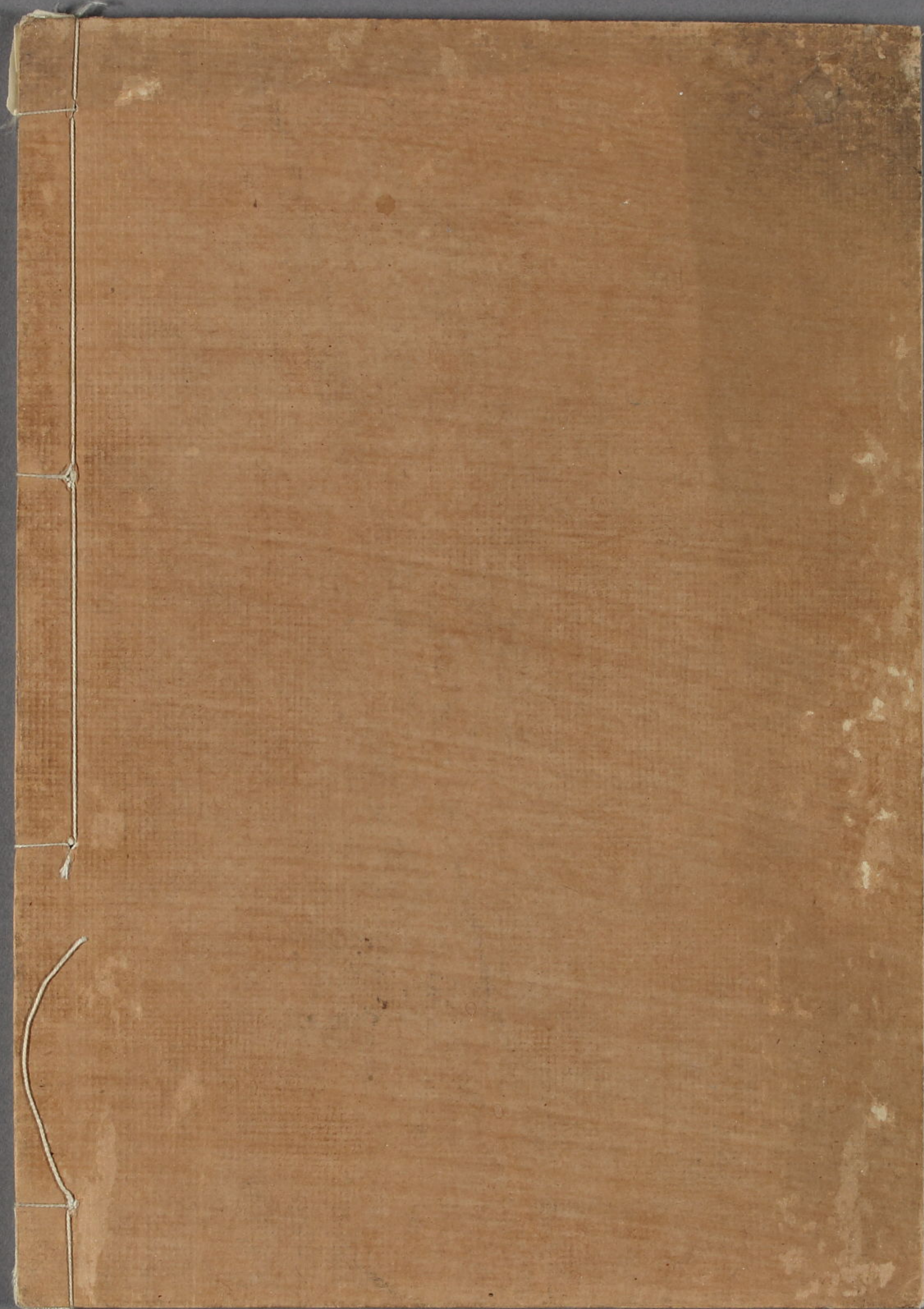
全國天羽郡吉野村上

大森澄江

全

水喜品







近作

清心のはらけ

縁なき故に

糸

冬にふる雪

白くまはるる

夜にゆく月

光りてゆく

白

空をゆく鳥

音なきは

鳥